

PCB漏れ事故 佐々木議員が現地調査

危険作業が派遣社員任せに



佐々木憲昭衆院議員は、人体への毒性が高く、発がん性のあるPCBの漏れ事故などがあいつぐPCB処理施設、JESCO 日本環境安全

COの正社員は31人、TKSの作業員は137人ですが、うち派遣社員が101人で、12社から派遣されています。

全事業株式会社）豊田事業所を17日、視察しました。市田忠義参院議員秘書、大村義則、根本はるみ両豊田市議らが同行しました。

JESCOは全額政府出資の会社で、同事業所は昨年11月19日に排気配管から、12月8日にポリタンクから、それぞれPCBを含む油を施設内に漏出させる事故を起こし、今月4日から作業を停止しています。この前後に事故として報告されているものだけでも5件にのぼります。

一日のうち、JESCOや運転管理を委託されているTKS 卜ヨタ環境サービスの正社員がいるのは日中の8時間だけで、日常的には異なる派遣会社から派遣された作業員同士で指揮命令を行っており、労働者派遣法上も問題になります。



11月の事故では、現場の指揮者は当初、PCBが含まれていないと判断し、漏れていた液体をふき取り、配管下にバケツを置いただけでした。事故当時、現場の作業員は全員派遣社員でした。

同事業所の説明によるとJES

佐々木議員は PCBは十分な知識と訓練を受けた人が管理すべきもの。職長まで派遣社員だというのは問題といわざるを得ません。JESCOは全国に五事業所ありますが、派遣社員が多いという実態があります。処理方法も含めてあり方を根本的に見直すべきではないか」と述べました。

あいち知多農政連のTPP反対集会参加

井上議員



井上さとし参院議員は19日、愛知県常滑市で開かれた TPP断固反対集会」に出席し、 TPPに反対し、日本の農業を守り抜く」と決意表明しました。

主催は政治団体のあいち知多農政連盟で、同連盟主催の集会に党国会議員が参加するのは初めてです。

この日の集会では、井上氏のほか、民主党、自民党、公明党の国会議員、生産者の代表らによるパネルディスカッションがおこなわれました。

会場いっぱいの600人が参加し、

地元選出の県議や首長も参加しました。

井上氏は、TPPは、TPP参加は

日本の農業に壊滅的打撃を与え、食料自給率をさらに激減させる亡国の政治だ。農業だけでなく暮らし、地域経済、医療、労働などにも影響を与える」と述べました。また、世

界中で食料価格の高騰が大問題になっており、今後、食糧は安い外国から買えばよい」という状況ではなくなっていると指摘し、日本が外国から食料を買いあさるようなことになれば、いっそうの価格高騰を招き、途上国の食料不足を深刻にする。食料自給率をあげることがは世界に対する責任でもありません」と強調すると、会場から大きな拍手がわきました。

民主党の議員は、党内ではTPP慎重派というところで、あくまで情報収集中であり、参加を決めたわけではなく、総理の発信の仕方には問題がある」と述べていましたが、会場からは「公約違反だ」言ってることとやっていると違う」など批判の声が上がりました。

終了後、集会決議が壇上で国会議員に手渡されました。